

第11回全国高校ビブリオバトル 決勝大会

REPORT



2025年1月26日(日)、全国高校ビブリオバトル決勝大会が東京都千代田区のみどり大手町ホールで開催された。各都道府県の代表49名が出場し、予選を勝ち抜いた8名が決勝の舞台へと進んだ。



優勝した石橋高等学校 室井優奈さん

決勝に先立ち、作家の新庄耕氏と汐見夏衛氏をゲストに迎えてトークセッションが開催された。お二人から高校生へのおすすめ本と紹介されたのは、『ニューカルマ』(新庄 耕 著／

集英社)、『ハードボイルド・エッグ』(荻原 浩 著／双葉社)、『天使』(佐藤重紀 著／文春文庫)。

決勝会場はプレゼンターの個性あふれる発表に加え、新たに設けられた“グッド質問賞”を獲得するべく参加者からは絶妙な質問もあって大いに盛り上がった。



準チャンプ本 福島県立 葵高等学校 細井淳一朗さん

優勝は『アヒルと鴨のコインロッカー』(伊坂幸太郎 著／東京創元社)を紹介した栃木県立石橋高等学校 室井優奈さん。準優勝には福島県立葵高等学校 細井淳一朗さん『あと十五秒で死ぬ』(榊林 銘 著／東京創元社)、ゲスト特別賞に徳島県立川島高等学校 加藤千洋さん『僕は上手にしゃべれない』(椎野直弥 著／ポプラ社)が選ばれた。

東京都代表のバトルたちも、ビブリオ仲間との交流やグッド質問賞の獲得など、新たな出会いを満喫したようだ。



写真提供：読売新聞社

超カンタン

ビブリオバトル 書評合戦のルール

- 1 おすすめ本を持って集まる。



みんなが発表する人、発表を聞く人、質問する人、投票する人になる。
- 2 おもしろかった本の、おもしろさを伝える5分間。その後に質問タイム2分間。



ここがこんなふうにおもしろいから

みんなも読んでみてー
- 3 読みたくなった本に投票してチャンプ本を決定!



本が勝者なのです。



高校生による 書評合戦 ビブリオバトル

公益財団法人 文字・活字文化推進機構



ホームページ <https://www.mojikatsuji.or.jp>
E-mail: office@mojikatsuji.or.jp

2025. 3

本の海にダイブする。ゆったりと深く潜る。深海には息を呑むほどのdeep blue!

ディーブ・ブルー

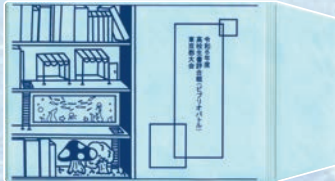
高校生書評合戦 (ビブリオバトル) 東京都大会 2024年11月4日(月・休日) 10:00~17:00

「好きな本をチャンプ本にしたい」というバトラーたちの熱い戦い、それが書評合戦 (ビブリオバトル) です。今年もオススメ本を手にした128名の高校生が集まりました。

自分の選んだ本の、おもしろさを伝えて、「読んでみたい」と思わせたら勝ち。マリアナ海溝よりも深い、本の世界へようこそ。



会場となった東京都教職員研修センター



投票の時に挙げるブックカバー (デザイン: 都立東久留米総合高等学校3年 堀 咲良さん)

予選

12会場に分かれて熱戦が繰り広げられました。全24試合のチャンプ本だけが準決勝に進出できます。厳しい戦い!



準決勝

予選を勝ち抜いた24名が6会場に分かれ、最後の6名に絞られます。決勝の大舞台に立つことができるのは誰? どの本?



チャンプ本



都立戸山高等学校2年
堀江 将人さん

『ノウイットオール あなただけが知っている』
森 バジル 著 (文藝春秋)

この短編集の5作品、すべて違うジャンルです。ミステリー、青春小説、SF、ファンタジー、恋愛小説の5つで、すべての短編が同じ街、同じ時間を舞台に進行します。

それぞれの主人公が、別の短編にも主人公ではなく存在していて、すれ違ったりします。これって現実似ていませんか? この世界には私のストーリーがあり、あなたのストーリーがある。それが今、この場所で交わる。

インタビュー

前回も準決勝まではいけました。運が良かっただけです。自分がおもしろいと思うポイントを説明的に積み上げていく構成にしたんですが、反応は薄かったのです。

今回はその反省から、自分と同じ趣味・趣向を持った人への語りじゃなくて、短編集をあまり読まない人にも「おもしろそうだ」と思ってもらえるように工夫してみました。どんな質問がくるかも想定していて、ちょうどいい質問がきて助かりました。

準チャンプ本



都立久留米西高等学校2年
田中 竣也さん

『100分間で楽しむ名作小説 銀河鉄道の夜』
宮沢 賢治 著 (KADOKAWA)

これはSF青春異世界転生物語です。ジョバンニという主人公は悲しい境遇にいます。ある日、彼は全身を光で包まれて銀河鉄道の中に迷い込みます。

その旅は楽しくて美しい。地上での嫌だったことがすべて夢だったかのようです。しかし、最後の最後で現実に戻ります。宮沢賢治は、おしゃれな表現とカッコいい文章で異世界を描き出しました。

インタビュー

発表が最後の6人目だったので、みんな聞き疲れてるんじゃないかと思って、それが不安でした。だから舞台を広く使って、しゃべりより動きで何とかしよう。正攻法ではありませんが笑ってもらえて良かったです。

演劇部なんで、オリジナル台本を書いたりもしています。しゃべりの部分、動きの部分どちらも、演劇部の活動が役に立ったのかもかもしれません。

優秀賞



都立日比谷高等学校2年
香川 和花さん
『世界でいちばん遠きとおった物語』
杉井 光 著 (新潮社)



国立東京学芸大学附属国際中等教育学校4年
黒田 ゆなさん
『父が息子に語る 壮かつ圧倒的に面白い哲学の書』
スコット・ハーショヴィッツ 著
御立 英史 訳 (ダイヤモンド社)



都立白鷗高等学校2年
横尾 陽大さん
『アルジャーノンに花束を』
ダニエル・キイス 著
小尾 美佐 訳 (早川書房)



都立西高等学校2年
山田 亜未さん
『神様の裏の顔』
藤崎 翔 著 (KADOKAWA)

講演会

小説家 永井 紗耶子さん



解像度の高い世界を見るために

さっき、皆さんの書評合戦を見てきました。その中に「とても不愉快な気持ちになる本です」という書評がありました。

ネガティブな感情も包み隠さず、揺り動かされた自分の感想を表現する勇気が、素晴らしいと思いました。

1冊の小説を書き上げるためには相当なエネルギーを必要とします。まず、段ボール3箱くらいの資料を読みます。それに加えて、私がこれまで読んで影響を受けた数多の本がある。そうすると、ざっくり100冊を超える本の情報が新しい作品として再構成され、詰め込まれていることになります。パソコンの圧縮ファイルみたいなものですね。

その圧縮ファイルである小説を皆さんのお手元に届けられたいなら、次は、それぞれの読者が持っている解凍ソフトによって小説が解凍され、文章が映像化されます。

「そこは一面の焼け野原でした」と書かれていたとして、その景色を想像できる人、できない人とは映像の解像度に差が出てくる。“見える景色”をより鮮明にする経験や情報を得るために、たくさんの本に触れて下さい。

Pickup

前回大会で準チャンプ本、リトライの理由とは?



都立八王子東高等学校2年
辻井 龍之介さん

『ジェノサイド』
高野 和明 著 (KADOKAWA)

前は「百年法」(山田宗樹著 KADOKAWA)で準チャンプ本を獲得した辻井龍之介さんが決戦の地に戻ってきました。「前は単純に悔しかったです。チャンプ本ではなく準チャンプ本だったっていうのもそうですし、全国大会も決勝まで行きたかったのに行けなかった。もっとできたんじゃないかと納得できない部分がありました。

全国大会に出場してみても、関西の人の特徴というか、笑いを取りにいける人は強いな、すごいなと感じました。全国で勝つために笑いは必要だと学びました」

もっと深く。

東京都大会の、もっとその先へ。

新たな人との出会い、新たな本との出会いによって「自分の世界」は広がったり深まったりします。勝ち負け以上のところまで辿り着けるのが書評合戦 (ビブリオバトル) です。